

『満漢詩経』 満洲語に於ける存在動詞 **bimbi** について

早田清冷

(The Manchu Existential Verb *bimbi* in *Man Han Shi Jing*)

Suzushi HAYATA

(pp. 13-22)

Contribution to the Studies for Eurasian Languages series vol.15

『チュルク諸語における固有と外来に関する総合的調査研究』
Native and Loan in Turkic Languages

九州大学人文科学研究院言語学研究室 Department of Linguistics, Graduate School of
Kyushu University / ユーラシア言語研究コンソーシアム The Consortium for Studies of
Eurasian Languages

2009 March

ISBN 978-4-903875-18-7

『満漢詩経』 満洲語に於ける存在動詞 **bimbi** について¹

早田 清冷
(東京大学)

hayatag@gmail.com

『満漢詩経』² を資料として、その満文に於ける存在動詞終止形について、頻度が低いとされる **bimbi** の用法を中心に報告する。

1. 存在動詞終止形 **bimbi**

満洲語の存在動詞終止形として **bi** と **bimbi** の二つの形が知られている。このうち **bimbi** という終止形は「(辞書などにはあるが)あまり用いない」(津曲 2002: 55)とあり、用例が少ないと言われている。

早田(2006:38-46)は **bimbi** の存在様態を、「自分で動く物が、或る限定された時間だけ、或る場所に居る(そして何らかの活動をしている、即ち居続けている、生きている、住んでいる)」(同: 46)とする。資料は『順治三國志』(1650年序)と『満文金瓶梅』(1708年序)である。**bimbi** の使用は『順治三國志』で 24 回、『満文金瓶梅』22 回であり、**bimbi** の主語は『順治三國志』で「鳥」(1 回)、「龍」(2 回)、擬人化した「緑水」(1 回)がある以外は全て人間であるという。**bi** が無標の存在動詞(主語は[±活動体])であるのに対して **bimbi** は主語が[+活動体]である有標の存在動詞であるとしている。

2. 『満漢詩経』の **bimbi**

『満漢詩経』では **bimbi** は決して珍しい形式ではない。『順治三國志』のおよそ 20 分の 1 強の量のコーパスでありながら **bimbi** の使用は『順治三國志』の 24 回を上回る 26 回である。うち、人間以外を主語とす

¹ 本研究報告を発展させた詳細な考察は早田(2009)を参照されたい。

² 資料は『満漢詩経』(東洋文庫蔵)。満漢合璧書で順治 11 年(1654 年)の序文。分析の際、キーワード前後文脈つき索引の作成ソフトウェアとして木村(1999-2009)を用いた。

る使用が 12 回と比較的多いのも特徴である。以下に用例を見る。

- (1) saksaha -i feye de dudu *bimbi*,
 鵲の巢に鳩がいる
 漢文： 維鵲有巢。維鳩居之。
 「かささぎのつくった巢に かっこうが来て居すわる³⁾」
 (1-8a・12 鵲巢⁴⁾)

bimbi の主語は鳩(順治年間の満洲語でカッコウと区別されたか不明)。自分の卵を産むために他の鳥の作った巢に移動して来た状態。

- (2) yamji cimari miyoo de *bimbi*,
 朝に晩に役所にいる
 漢文： 夙夜在公。
 「朝に晩に働かずくめ」
 (1-8a・13 采蘩)

bimbi の主語は人間である。出勤して朝晩そこで働いている。

- (3) cib cib seme dobori yabumbi, erde farhūn ejen -i jakade *bimbi*,
 粛々として夜行く, 朝暗い時に主人のもとにいる
 漢文： 肅肅宵征。夙夜在公。
 「いそいそと夜行く人は 宵から朝まで宮仕え」
 (1-13b・21 小星)

bimbi の主語は人間である。朝暗い時に主人のもとで仕事をしている。

- (4) šahūrun šeri tucici jiyūn -i fejile *bimbi*,
 寒泉が湧くならば, (それは) 浚の下にある
 漢文： 爰有寒泉。在浚之下。
 「木々をうるおす冷たい泉 地下を調べてくる」
 (1-22a・32 凱風)

³⁾ 加納(1983)の訳を漢文下に載せた。なお、これはあくまでも漢文の側の解釈の一例に過ぎないもので満洲語とは必ず一致するというものではない。

⁴⁾ ()内に卷-丁, 表/裏(a/b)の別・通算何番目の詩か, 詩の題を順に示す。

bimbi の主語は寒泉(šahūrun šeri)である。浚(町の名)に湧いて存在している。

- (5) *ejen -i turgun waka oci silenggi dolo ainu bimbi.*
 君のせいでないならば、露の中に何の為にいるでしょうか？
 漢文： 微君之故。胡爲乎中露。
 「あなたとのえにしあればこそ 露に濡れて待ってます」
 (1-26b・36 式微)

bimbi の主語は人間である。露の中に留まっている。

- (6) *ejen -i beye akū bici lifahan -i dolo ainu bimbi.*
 君の身が無いならば、泥の中に何の為にいるでしょうか？
 漢文： 微君之躬。胡爲乎泥中。
 「あなたの御身を思えばこそ 泥にもがいて待ってます」
 (1-26b・36 式微)

bimbi の主語は人間である。泥の中に留まっている。

- (7) *mini hojo ubade akū, we -i emgi emhun bimbi.*
 私の美しい人は此処にいない、誰と共に独りである
 漢文： 予美亡此。誰與獨處。
 「いとしい人は行ってしまった 優しくいたわるひとはなし」
 (2-34b・124 葛生)

bimbi の主語は人間である。さびしく独りで過ごしている。

- (8) *mini hojo ubade akū, we -i emgi emhun bimbi.*
 私の美しい人は此処にいない、誰と共に独りである
 漢文： 予美亡此。誰與獨息。
 「いとしい人は行ってしまった 心を休めてくれるひとはなし」
 (2-34b・124 葛生)

漢文は(7)の「誰與獨處」と異なり「誰與獨息」であるが満文訳は(7)と同文である。

- (9) *honci jibca -i ilgašambi, dobihi jibca -i yamun de bimbi,*

羊の毛皮の服で遊びに行く，狐の毛皮の服で役所にいる

漢文： 羔裘翱翔。狐裘在堂

「とび回るのは羊の毛皮 堂上に坐すは狐の毛皮」

(2-48b・146 羔裘)

bimbi の主語は人間である。役所に行ってそこで働いている。

(10) *ši gio nimalan de bici, terei deberen bula de bimbi,*

鴉鳩が桑にいれば，その子はナツメにいる

鴉鳩在桑。其子在棘。

「かっこうの母は桑に止まり その子はなつめに移りゆく」

(2-52a・152 鴉鳩)

bimbi の主語は雛(deberen)である。ナツメの木に滞在している。

(11) *ši gio nimalan de bici, terei deberen jsiha de bimbi,*

鴉鳩が桑にいれば，その子はハシバミにいる

鴉鳩在桑。其子在榛。

「かっこうの母は桑に止まり その子ははしばみに移りゆく」

(2-53b・152 鴉鳩)

bimbi の主語は鳥の子(deberen)である。ハシバミの木に滞在している。

(10), (11)は共に「鴉鳩」の中の用例。

(12) *nadan biyade bigan de bimbi, jakūn biyade sihin de bimbi, uyun biyade boode bimbi, juwan biyade gurjen mini besergen -i fejile dosimbi,*

七月に野にいる。八月に軒先にいる。九月に家にいる。十月にコオロギは私の寝台の下に這入る

漢文： 七月在野。八月在宇。九月在戸。十月蟋蟀。入我牀下。

「七月こおろぎは野に住まい 八月 のきに移り 九月 戸に止まる 十月 こおろぎは床の下に入る」

(2-55b・154 七月)

bimbi の主語はコオロギ(gurjen)である。それぞれの月の間だけそれぞれの場所で活動している。

(13) *gung bedereci ba akūn, sinde taka bimbi.*

公は帰るとしても場所が無いか？(なら私は)あなた(のそば)
に、しばらくいる

漢文： 公歸無所。於女信處。

「公子さまはどこへ帰るのかしら あなたともう一晚ご一緒
しましょ」

(2-61b・159 九罫)

bimbi の主語は人間である。聞き手のそばに話し手が積極的に滞在する事を述べる。

(14) nimaha tunggu de somime bihengge, ememu fonde niyamašan de *bimbi*,

魚が淵で隠れていたものが、時々中州にいる

漢文： 魚潜在淵。或在于渚。

「魚はふちにひそんだり 中州のかげに隠れたり」

(3-28a・184 鶴鳴)

bimbi の主語は魚である。時々中州に移動して、そこに滞在する。

(15) nimaha niyamašan de bihengge, ememu fonde tunggu de somime *bimbi*.

魚が中州にいたものが、時々淵に隠れている

漢文： 魚在于渚。或潜在淵。

「魚は中州に隠れたり 深いふちにひそんだり」

(3-28b・184 鶴鳴)

bimbi の主語は魚である。時々淵に移動して、そこに隠れる。

(16) ede tembi, ede *bimbi*, ede injembi, ede gisurembi.

ここに座る、ここにいる、ここで笑う、ここで喋る

漢文： 爰居爰處。爰笑爰語。

「あっちで坐りこっちで休み 笑いつつしゃべりつつ」

(3-32b・189 斯干)

bimbi の主語は人間である。bimbi は人間の活動の一つとして、「座る」、「笑う」、「喋る」という行為と並列されている。

(17) ememungge beserhen de dedufi *bimbi*, ememungge yabure be nakarakū.

或る者は寝台で横になっている，或る者は歩き回るのをやめない

漢文： 或息偃在牀。或不已于行。

「ベッドに寝そべる者もあれば 道でかけずりまわる者もある」

(4-18b・205 北山)

bimbi の主語は「或る者」(ememungge)である。ベッドの上に横になって滞在している。

(18) ememungge baibi oncohon umesihun *bimbi*, ememungge wang ni baita de šulubumbi.

或る者はごろごろしてばかりいる，或る者は王の事に心を悩ませる

漢文： 或栖遲偃仰。或王事鞅掌。

「ゆったり寝起きする者もあれば いくさでてんでこまいのものもある」

(4-18b・205 北山)

bimbi の主語は或る者(ememungge)である。日々の生活を送っている。

(19) gung ni oren ofi sarin de jifi *bimbi*,

(先祖の霊が)公の位牌となって酒宴に来ている

漢文： 公尸來燕來寧。

「かたしろは宴で味わった」

(5-23b・248 堯鷺)

bimbi の主語は先祖の霊である。酒宴に参加している。

(20) wesici ninggude *bimbi*, wasici šehun bade *bimbi*,

上がれば上にいる，降りれば原っぱにいる

漢文： 陟則在巘。復降在原。

「小さな山に登ったり 降りては原を見歩いた」

(5-26a・250 公劉)

bimbi の主語は人間である。高地と原っぱに移動して来て滞在している。

(21) fung hūwang deyerede, terei asha hiyong seme, inu terei doore bade *bimbi*,

鳳凰が飛ぶ時に、その翼はひゅんとして、また彼らのとまる所にいる

鳳凰于飛。翩翩其羽。亦集爰止。

「鳳凰飛ぶよ 羽音がシュッシュッ 集まって木に止まる」

(5-29b・252 卷阿)

bimbi の主語は鳳凰(fung hūwang)である。鳳凰(つがいであろう)がとまる場所にとまって滞在している。

(22) amba edun de jugūn bi, šumin amba holo de *bimbi*,

大きな風には道がある、深い大きな谷にある

漢文： 大風有隧。有空大谷。

「大風に通り道あり 空っぽな大きな谷間」

(6-11b・257 桑柔)

bimbi の主語は風(edun)あるいは、風の通り道(jugūn)である。風が谷に吹いている状態である。一方で「大きな風には道がある」の部分は bi が用いられている。

(23) abka geren irgen be banjibufi, jaka bici, durun *bimbi*,

天が民衆を生み、物あれば、法則がある

漢文： 天生烝民。有物有則。

「天はもろびとを生みたまい 物と法則をこしらえた」

(6-18b・260 烝民)

bimbi の主語は法則(durun)である。「ものがある」という条件下で法則が出現して存在している状態である。『満漢詩経』では活動体とは見なしがたい抽象的な概念も bimbi の主語として用いられている。

以上 bimbi の全用例を見た。

3. 『満漢詩経』の bi

次にもう一つの存在動詞終止形 bi の用例の一部を示す。bi は用例が多い上に一人称単数代名詞や補助動詞と同形であるから、詳細の報告は今後の課題とする。

(24) mailasun -i cuwan yabume, birai dulimbade *bi*,

柏の舟が行き、川の中央にある

漢文： 汎彼柏舟。在彼中河。

「浮かび漂うかしわの小舟 川の真ん中であてもない」

(1-33a・45 柏舟)

bi の主語は舟(cuwan)である。移動してきて一時的に川の中央にある(この詩の後半で川の縁に移る)。

(25) singgeri be tuwaci sukū *bi*,

鼠を見れば皮がある

漢文： 相鼠有皮。

「ねずみには皮があるけれど」

(1-37b・52 相鼠)

bi の主語は皮(sukū)である。鼠の体に恒常的に存在する物である。

(26) fekuceme buyeme, hoton -i leose de *bi*,

emu inenggi saburakū ci, ilan biyai adali.

うろうろしつつ恋しつつ、街の楼にいる

一日会わないならば、三ヶ月の如し

漢文： 挑兮達兮。在城闕兮。一日不見。如三月兮。

「人を捜してうろうろと 都の物見の門の下

たった一日会わなくて 三つきもたったようなもの」

(2-11a・91 子衿)

主語は人間である。典型的な「活動体名詞」だと思われる。一時的に街の入口にある楼(城壁の上に建っている)の所にいる。

(27) usin -i dulimbade boo *bi*,

田の中に家がある

漢文： 中田有廬。

「畑には仮小屋があり」

(4-26a・210 信南山)

主語は家である。典型的な「非活動体名詞」だと思われる。

4. 考察

bimbi の使用は非恒常的な存在に限られており、「限られた空間/時間/条件下での主語の一時的な滞在/存在」でしか用いられない。その一方で bi は非恒常的な存在(24)にも恒常的な存在(25)にも用いられる。この点は『順治三國志』に於ける存在動詞の用いられ方にも共通する特徴である。主語に関して、bi の主語には明らかな活動体である(26)「人間」も、明らかな非活動体である(27)「家」も現れており、『満漢

詩経』の満文でも **bi** は無標で **bimbi** は有標と言える。

しかし、**bimbi** の主語に注目すると状況は『順治三國志』とはやや異なる。確かに **bimbi** の主語には「自分で動く物」が多く、「城」や、「山」といった、[-活動体]として典型的と思われる物が **bimbi** の主語になっている例は無い。しかし「人間」や「動物」以外にも非有情物である(4)「泉」や(22)「風(あるいは、その通り道)」も主語になり、(23)「法則」に至るまで主語になっている点は興味深く、主語の制限は **bimbi** にとって本質的ではない可能性がある。**bimbi** の用例を見ると主語が「状態ではなく、積極的な行為として存在している」傾向が強いと思われるが、(23)「法則」の様なものを「出現する」という活動をするという理由で[+活動体]と見なすのでは、あらゆる名詞が際限無く[+活動体]に成りうることになり受け入れがたい。**bimbi** の主語がほとんど活動体であるというのは、**bimbi** が非恒常的な存在を表す故の主語の傾向に過ぎないのであり「自ら動く物」でなければ主語になれないという制限が有るわけではないと考えられる。

5. 終わりに

bimbi は有標の形式で、存在の状態は[-恒常的]であり、主語は[+活動体]には限定されない可能性が高い。**bi** の存在の状態は[±恒常的]で、無標の形式であるが、[-恒常的]な存在に用いられたときの **bi** と **bimbi** の働きの違いは今後の分析を待たなければならない。

参考文献

- 早田清冷(2009)「満洲語の **bi** と **bimbi** について」『東京大学言語学論集』
28: 59-70 東京大学.
早田輝洋(2006)「満洲語の繫辞と存在動詞」『アルタイ語研究 I』大東文化大学.
加納喜光(1983)『中国の古典 18 詩経上』, 『中国の古典 19 詩経下』藤堂明保監修. 学習研究社.
津曲敏郎(2002)『満洲語入門 20 講』大学書林.

使用ソフト

- 木村展幸(1999-2009)『KIS 日本語解析システム』KisKwic for Windows,
KIS(株)漢字情報サービス.

The Manchu existential verb *bimbi* in *Man Han Shi Jing*

HAYATA Suzushi
(The University of Tokyo)

The present paper examines the existential verb *bimbi* in the Manchu of *Man Han Shi Jing*. The following two points are claimed.

1. The verb *bimbi* is a marked existential verb which can be used only when the existence of the subject is transient.
2. The verb *bimbi* does not necessarily require a [+animate] subject.